

目次

1. 日本労働社会学会 第35期 第3回幹事会 (2023.7.1) 議事録
2. 日本労働社会学会 第35期 第4回幹事会 (2023.9.2) 議事録
3. 日本労働社会学会 第35期 第2回研究例会 (2023.7.1) 報告

★2023年度年会費納入のお願い★

★新著紹介のお願い★

★住所・メールアドレス変更通知のお願い★

1. 日本労働社会学会 第35期 第3回幹事会 (2023.7.1) 議事録

日時：2023年7月1日(土) 13:00～14:30

方法：対面(専修大学7号館782教室) + オンライン(Zoom)

参加：清山、勝俣、跡部、岡村、清水(以上対面)、上原、小川、飯田、呉、鈴木、近間、戸室、宮地、三家本、山縣、山根、渡辺(以上オンライン)

開催校から部分参加：松尾、白井

I. 第35回大会(2023年10月27日～29日 青山学院大学青山キャンパス)について(松尾会員)

1. 開催校準備状況及び開催方法

(1) 工場見学(27日)

以下が提案・承認された。

見学先：株式会社パラマウント・ワーカーズ・コープ(東京都足立区千住関屋町8-8)

日時：10月27日(金) 午後1時30分～3時頃

定員：先着順15人(開催校の引率者除く)

6月に同社の社長了承済、見学含めかつての争議(自主生産)の概要説明を含む。なお、先方への手土産(菓子折など)は幹事会で用意することになった。代表幹事が手配し、領収書を会計処理する。

(2) 自由論題(28日)、シンポジウム(29日)

以下が提案・承認された。

会場：本学14号館(総研ビル) 第19会議室(メイン会場、約100人収容)。

他に第18会議室(70～80人収容)、第17会議室(20～30人収容)。

開催形式：対面を原則とする。なお、天候不順等緊急時体制について、幹事会、研究活動委員会、開催校で協議の上、提案する。

(3) 懇親会(28日)

以下が提案・承認された。

会場：同日18時からアイビーホール1階「茶珈堂」を参加数40人で予約済。

参加費：従来より各1000円値上げし、一般会員等5000円、院生等3000円とする。なお、開催校は二次会のアレンジはしない。

(4) その他

参加費等は当日受付での支払い。金額は従来通り1人2000円。弁当代1食1000円（事前注文）。土曜日は構内のコンビニ（17時まで）や食堂（15時まで）も営業。

II. 委員会報告・協議

1. 『年報』編集委員会（山縣幹事 ※松永幹事（委員長）代理）

8月中に入稿予定で作業を進めている。投稿論文の査読について、査読者選定に困難をきたした事例ならびに査読割れで第三者審査を実施し、その結果掲載に至らなかった事例が共有された。

2. 『ジャーナル』編集委員会（小川幹事）

23号を4/5に刊行。物価上昇に伴う編集費115%値上げが版元より要望され、シミュレーションの結果に基づき会費への影響が小幅であることが示され、承認された。また、査読割れで掲載決定した論文に対し、編集委員会の判断として厳しいほうの評価の内容についても伝えること、また、投稿後に査読が遅くなる可能性について伝えることになった。

さらには、原稿を集めるためにジャーナルの刊行スケジュールを変更することについての検討結果が示され、年報とジャーナルの投稿件数に特段の相関がないことから、現行のスケジュールを維持することになった。

3. 研究活動委員会（上原幹事）

(1) 第35回大会について

①自由論題（7月末締め切り）

②シンポジウム：報告者3名ならびにテーマ案が報告された。審議の上、テーマ案の副題を再考することとなった。

(2) 学会奨励賞

候補作が報告された。自薦他薦以外に研活委員会がリストアップすることの煩雑さについて提案され、書評用に年報編集委員会が確認したリストに基づき、「修士終了後16年」の資格について研活委員会で検討することになった。

4. 関西部会（渡辺幹事）

以下の通り研究会が開催された。

日時：5月28日（日）午後1時～午後2時30分

報告者：池田佳代会員（関西学院大学社会学研究科(大学院研究員)）

報告タイトル：ニカラグアの先住民族女性組織によるコミュニティ・オーガナイズング～成人教育としての「デジタル・ストーリーテリング」と動員の過程
オンラインで実施され、活発な議論が行われた旨報告された。

5. 社会学系コンソーシアム担当（跡部幹事）

特段の報告事項なし。

6. 社会政策関連学会協議会担当（近間幹事）

7月末に協議会委員会開催予定。学術会議関連で動きがあればご協力をお願いしたい。

7. 学会ホームページ担当（鈴木幹事）

大会情報ならびに自由論題募集の告知を実施した。会員新著情報の呼びかけを行って

る。

8. 会計担当（岡村幹事）

主な収入・支出、大会までの会計スケジュール、長期滞納状況が示された。

9. 事務局（清山代表幹事・勝俣幹事）

(1) メーリングリストの作成・運用開始について

3月に承認された標記事項について、ロリポップのレンタルサーバー上のアドレスで作成した旨報告された。一斉メールからMLへの移行作業の手順が示され、今期に名簿発行を行うため、会員情報の更新についても案内することを含め承認された。

(2) その他

2024年度の大会開催校について、意見のある幹事は事務局まで連絡することとなった。

Ⅲ. 入退会者、会費減免措置の承認

入会4名、退会3名、会費減免措置3名が承認された。奨励賞対象者の基準となる情報として必要であるため、入会申請フォームに修士を何年に取得したかを記載することとなった。

2. 日本労働社会学会 第35期 第4回幹事会（2023. 9. 2）議事録

日時：2023年9月2日（土）13:00～14:50

方法：対面（専修大学7号館7階 783教室）＋オンライン（Zoom）

参加：清山、勝俣、岡村、戸室、清水（以上対面）、上原、小川、松永、飯田、呉、鈴木、近間、宮地、三家本、山根、渡辺（以上オンライン）

開催校から部分参加：松尾、白井

I. 第34回大会（2023年10月27日～29日 青山学院大学青山キャンパス）について

1. 開催校準備状況及び開催方法

(1) 工場見学（松尾会員）

見学先：株式会社パラマウント・ワーカーズ・コープ（東京都足立区千住関屋町8-8）

日時：10月27日（金）午後1時30分～3時頃（参加者は午後1時に北千住駅に集合）

定員：10月13日締め切りで先着順15人（開催校の引率者除く）

プログラムに同封して案内を送る。

(2) 自由論題（28日）・シンポジウム（29日）（松尾会員）

予定していた会場に一部変更が生じた。28日は9号館920、921、922の3教室（いずれも200人程度収容）。27日、29日は変更なし（14号館総研ビル）。

開催形式は対面形式とする。ハイブリッド方式は台風等による交通機関の障害時のみとし、報告者都合によるオンライン報告は認めない（7月幹事会で確認済）

(3) 懇親会（松尾会員）

会場：同日18時からアイビーホール1階「茶珈堂」を参加数40人で予約済

参加費：従来より各1000円値上げし、一般会員等5000円、院生等3000円。

(4) 緊急時オンライン／ハイブリッド方式（事務局）

緊急時オンライン／ハイブリッド方式マニュアルが共有された。
今後、事務局と開催校とで環境面を含めた調整を行う。

(5) その他（松尾会員）

開催校経済学部にて会議室使用料の補助を申請し、認められた旨報告された。
大会参加締め切りは10月13日。

II. 委員会報告・協議

1. 『年報』編集委員会（松永幹事）

9月1日入稿。学会前に発送予定のスケジュールで進めている。2本の投稿論文が掲載不可となった経緯について共有がなされた。

2. 『ジャーナル』編集委員会（小川幹事）

2本の投稿論文のうち1本が掲載不可、1本が第3の査読者依頼中であることが共有された。投稿論文の増加や報告の活発化に向けて、学会報告者への声掛けや、研究例会および大会報告でチームによる科研費成果報告会を組み合わせることが代表幹事より提案された。また、小川幹事作成の「投稿の勧め」の共有がなされ、活用されることとなった。

3. 研究活動委員会（上原幹事）

(1) 第35回大会について

- ①自由論題：8件。要旨はすべて受領済み。司会はこれから交渉する。
- ②シンポジウム：報告者3名ならびにテーマ案が報告された。

(2) 学会奨励賞の報告

学会奨励賞について、上原幹事から、選考委員会による中間報告について説明がなされ、幹事会で承認された。選考結果については総会において発表する。

4. 関西部会（渡辺幹事）

特になし。

5. 社会学系コンソーシアム担当（跡部幹事 ※代理：小川幹事）

特になし。1月にシンポジウム開催予定。追って案内する。

6. 社会政策関連学会協議会担当（近間幹事）

7/22に第1回協議委員会が開催され、シンポジウム開催に向けた話し合いがなされた。今後11月か12月の第2回委員会で、引き続きシンポジウムの方向性を検討。

本学会の大会プログラムが完成し次第、研究活動委員会より幹事会のMLに流し、跡部幹事（コンソーシアム）、近間幹事（関連学会協議会）に周知をお願いする。

7. 学会ホームページ担当（鈴木幹事）

引き続き、情報の更新を行う。

8. 会計担当（岡村幹事）

会費未納の督促、長期滞納者への対応を行ったことが共有された。HPに掲載している第35期幹事会構成に、監事の吉田誠会員、鈴木玲会員の名前を表記することとされた。

9. 事務局

(1) 会員MLの運用について

レンタルサーバー上で作成した会員MLの運用を開始したが、Gmailには送付ができないため、以前のbccの方法に戻している。再度検討予定。

(2) その他

次回大会の開催校について、具体的に調整が進んでいることが報告された。

III. 入退会者、会費減免措置の承認

幹事会MLにて回覧、メール審議予定。再入会1名（未納分会費納入済み）、入会2名。

3. 日本労働社会学会 第35期第2回研究例会（2023.7.1）報告

研究活動委員会

2022年7月1日に、第35期第2回研究例会を専修大学神田キャンパスとオンラインとでハイブリット開催した。15名が参加し、活発に議論を交わした。当日の研究発表・討議の内容を概略的に報告する。

報告者： 跡部千慧

報告題目： 日宿直廃止をめぐる日教組運動の考察——女性の要求が組織的課題になる過程に着目して

報告要旨：

本報告の目的は、日本教職員組合（以下、日教組）が、1970年代に日宿直を廃止するまでにどのような運動を展開したのかを、日教組所蔵の内部資料を用いて明らかにすることである。対象とする時期は、日教組が結成された1947年6月から、文部省が「宿日直廃止」を発表した1968年1月19日までである。

戦後の学校宿直制度廃止に関する研究は、八藤後忠夫らによる文教大学生活科学研究所プロジェクト5「教師の生活と文化に関する研究（2015-2106）」があげられる。この研究では、聞き書きと史資料調査を用いて、学校での宿日直の成立過程と、廃止の過程を明らかにしている（八藤後ほか 2016；青木 2017；八藤後ほか 2017）。学校の宿日直制度は、天皇の写真、御真影の「奉護」を目的として成立し、宿日直が定着すると、学校は夜間や休日でも比較的訪れやすい場所となり、宿日直を通して教員同士や児童生徒、地域住民との交流もしだいに増えていったことや、戦後になって御真影や教育勅語がなくなると、学校施設の管理のみが宿日直の目的となり、時代の変化もあって、しだいに廃止を要望する声が高まり、宿日直教員に対する殺人事件や暴行事件をきっかけに「宿日直廃止」の動きは大きく広がったことが明らかである（青木 2017）。

一方、『日教組婦人部30年史』と『日教組40年史』を読むと、両者での宿日直制度に対する記述の差異が目につく。そもそも、呼び名も、『日教組婦人部30年史』では「日宿直」、『日教組40年史』では「宿日直」と異なる。日宿直廃止に対する認識は、日教組婦人部（現 女性部）と、日教組で異なり、両者の際に着目することは、女性の要求が組織的課題になる過程を考察することにもつながる。

そこで、本報告では、日教組婦人部と、日教組の日宿直廃止をめぐる歴史認識の差異に

着目しながら、日宿直廃止をめぐる日教組の運動過程を明らかにした。特に、労働組合において、女性の要求がいかにして運動方針化し、実現していくのかを、日宿直廃止を事例に考察した。

本報告に対し、各都道府県教組での方針の違いはあったのか、若手の（主として男性）教員から宿直業務について手当の必要から廃止を望まない意見などあったのか、年史における「宿日直」と「日宿直」の違いは男性が宿直、女性が日直に慣例的に入っていたことが背景にあるということかといった質問が寄せられた。

また、それぞれの参加者が通っていた小学校に宿直室は残っていたのか、残っていた場合、どのように使われていたのか等、参加者それぞれの経験と史資料の記述を照らし合わせて検討する場面もあった。ハイブリット開催ではあったものの、参加者全員が発言し、活発に議論を交わし、交流する機会となった。

★2023 年度年会費納入のお願い★

学会費の納入は下記口座までお願いします。

【郵便振替口座】 口座番号： 00150-1-85076 加入者名： 日本労働社会学会

年会費 学生・院生会員：6,000 円 一般会員：10,000 円

会費減免制度については、下記 URL をご参照ください。

<http://www.jals.jp/discount/>

お問い合わせ先：ワールドミーティング

(株)ワールドミーティング (日本労働社会学会事務代行)

Tel: 03-3350-0363 Fax: 03-3341-1830

E-mail: jals@world-meeting.co.jp

.....

★新著紹介のお願い★

日本労働社会学会のBlog にて会員の新著を紹介しています。

新著（共著を含む）を出版された方は事務局もしくは Web 担当にご連絡ください。

E-mail: chikara.suzuki129@gmail.com

.....

★所属や住所、メールアドレス変更連絡のお願い★

所属や住所、メールアドレスを変更した場合には、必ず事務局にご連絡ください。

E-mail: tkatsumata@isc.senshu-u.ac.jp

.....

★日本労働社会学会事務局（第 35 期）★

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1 専修大学人間科学部

勝俣達也研究室 気付

E-mail: tkatsumata@isc.senshu-u.ac.jp 学会 HP: <http://www.jals.jp/>
